

編集・発行 農林水産省農産局技術普及課

このメールマガジンは、普及事業に関する情報などを、登録された皆様に無料でお届けするものです。まわりに登録されていない方がおられましたら、ぜひ登録をお勧めください。

【技術普及課からのお知らせ】

☆令和7年度第2回国産肥料資源利用拡大アワードに応募しませんか

☆「令和7年度 病害虫発生予報第6号」(令和7年8月6日(水)付け)を発表しました。

☆米の生産者の皆様に向けた今後（来年、５年後、１０年後）の米の生産意向に関するアンケート調査について

☆〈参加費無料〉第3回農業者年金オンラインセミナー開催のお知らせ

☆「農山漁村」インパクト創出ソリューションを選定！マッチング希望の自治体を募集します！

☆(研究成果) カンキツの高品質果実生産技術「シールディング・マルチ栽培(NARO S. マルチ)」の適用可能な園地が拡大

☆(お知らせ)「北海道向けフェストロリウム品種『ノースフェスト』標準作業手順書」を公開

☆(研究成果)かぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」を育成

☆(お知らせ) 「促成栽培トマトにおける天敵タバコカスミカメ利用によるバコナジラミの密度抑制技術標準作業手順書」を公開

☆この暑さはどうなるの？「日本の気候変動 2025」をご活用ください

☆ 〈みどり戦略技術紹介〉 AI による温州みかん糖度予測

=====

=====

農林水産省では、国内資源（家畜ふん堆肥、下水汚泥資源、食品残渣等）の肥料利用の拡大を目指し、肥料関係者間のマッチング機会の提供、先進事例の発信等、全国各地における国内肥料資源の利用拡大に向けた種々の取組を行っています。

この度、令和7年9月18日（木）にマイドームおおさか（大阪府大阪市）にて、「国内資源肥料フォーラム in 近畿」が開催されます。

本フォーラムでは、肥料原料供給事業者、肥料メーカー、肥料利用者等が一堂に会し、基調講演や取組事例の紹介のほか、約40団体がパネル出展を実施いたします。ご興味のある方はどなたでも、無料でご来場いただけます。ご来場を希望される方は、以下公式HPより事前登録をお願いします（当日参加も可）。普及指導員の皆様におかれましても、ご参加及び関係者への周知のほどよろしくお願い致します。

日時：令和7年9月18日（木）13時～16時30分（12時45分受付開始予定）

会場：マイドームおおさか 2階C・Dホール

内容：基調講演、事例発表、約40団体のパネル出展、相談窓口等

主催：株式会社マイナビ

※本事業は令和7年度「国内肥料資源利用拡大対策事業」として運営しています。

▼詳細はこちら

マッチングフォーラム公式HP（外部リンク）

<https://agri.mynavi.jp/hiryo-forum/kinki/>

（参加申込締切：9月17日まで）

※お問い合わせ先

（株）マイナビ 地域活性CSV事業部（03-6267-4019）

◆令和7年度第2回国内肥料資源利用拡大アワードに応募しませんか

農林水産省では、国内資源（家畜ふん堆肥、下水汚泥資源、食品残渣等）の肥料利用の拡大を目指し、肥料関係者間のマッチング機会の提供、先進事例の発信等、全国各地における国内肥料資源の利用拡大に向けた種々の取組を行っています。

現在、その一環として、一般社団法人日本有機資源協会が実施主体となり、「令和7年度第2回国内肥料資源利用拡大アワード」の募集を行っております。

国内肥料資源利用拡大アワードとは、輸入原料に依存した肥料から、堆肥や下水汚泥資源等の国内資源を活用した肥料へ積極的に転換を図る取組や地域で効率的に資源循環を推進する取組を通して顕著な実績を挙げている団体を広く表彰し、国内資源肥料の全国普及、生産性の向上を推進することを目的として実施されている表彰事業です。

募集期間は、8月29日（金）までとなっておりますので、奮ってご応募ください。普及指導員の皆様におかれましても、関係者への周知をよろしくお願い致します。詳細は、以下のHPよりご確認ください。

▼詳細はこちら

令和7年度第2回国産肥料資源利用拡大アワード公式HP（外部リンク）

<https://www.jora.jp/activity/hiryo/2025award/>

（応募締切：8月29日（木）17時まで）

※本事業は令和7年度「国内肥料資源利用拡大対策事業」として運営しています。

※お問い合わせ先

（一社）日本有機資源協会 （03-3297-5618）

++・…… 病虫害発生予報の発表について ……・++

=====

◆「令和7年度 病虫害発生予報第6号」（令和7年8月6日（水）付け）を発表しました。

【消費・安全局 植物防疫課】

=====

農林水産省は、今後の水稻の病虫害発生動向や防除について「病虫害発生予報第6号」を発表しました。

普及指導員の皆様におかれては、病虫害防除所等と連携し、地域での防除が確実に実施されるようご指導をお願いします。

○今後発生量が多くなると予想される主要な病虫害及び地域

- ・水稻では、斑点米カメムシ類（イネカメムシを含む）の発生について1道2府26県で注意報が発表されており（8月1日現在）、四国、沖縄を除く全国の複数の地域で多くなると予想されています。
- ・豆類では、マメシクイガの発生が、北海道及び東北の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・野菜・花きでは、オオタバコガの発生が、北東北、北陸、東海及び近畿の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・果樹では、果樹カメムシ類の発生が、北海道、東北及び東海の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、ねぎのアザミウマ類等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので注意してください。

また、今後も継続して気温が高くなる見込みであることから、病虫害の発生量の増加や発生時期の長期化により、農作物への被害が増えるおそれがありますので、発生状況を注意し、適期の防除を実施してください。

▼詳細はこちら

都道府県の発表する病虫害発生予察情報と併せてご利用ください。

○「令和7年度 病虫害発生予報第6号」の発表について（令和7年8月6日付け農林水産省プレスリリース）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/250806.html>

○都道府県の病虫害発生予察情報など

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課

(担当：岡田、城野、古澤) (03-3502-3382)

++・…… 施策情報 ……・++

◆米の生産者の皆様に向けた今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向に関するアンケート調査について

【大臣官房政策課】

農林水産省では、今後の米政策を検討するにあたり、米の販売農家・農業法人その他経営体の皆様へ今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向に関するアンケート調査を実施しております。全ての米の生産者の皆様が対象です。

1か月程度を経てアンケートが現場に浸透しており、生産者の方から「アンケートの協力依頼が来たが、期限が短いので延長してほしい」といったお声が届いていることから、回答期間を延長しました。

普及指導員の皆様におかれましては、引き続き周知の協力をお願いします。

(調査期間)

令和7年6月19日（木）～8月31日（日）

(※調査期間延長しました。)

▼詳細はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo01/250619.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房政策課

(担当：岡本、松尾) (03-6738-6120)

◆農業知財総合支援窓口開設のお知らせ

【植物品種等海外流出防止対策コンソーシアム】

植物品種等海外流出防止対策コンソーシアムでは、農林水産省の所管する育成者権やG Iだけでなく、特許権や商標権等も対象とした、農林水産業・食品産業における知的財産に関する相談ができる「農業知財総合支援窓口」を令和7年7月31日に開設しました。

農業知財の専門家等が、相談者の方針や環境に寄り添い助言・支援を無料でいたします。

農林水産業・食品産業における知的財産に関して専門家に相談したいというお声等がございましたら、本窓口をぜひご案内ください。

また、普及指導員の皆様も、業務の中で生じる知財の疑問やお悩みを相談いただくこともできますので、ご自身でもお気軽にご相談ください。

▼詳細はこちら

<https://www.jataff.or.jp/project/hinsyu/contact.html> (外部リンク)

※お問い合わせ先

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)
イノベーション事業部 (03-3509-1161)
農林水産省 輸出・国際局 知的財産課
(担当: 中西、平川、伊坂) (03-6738-6442)

◆〈参加費無料〉第3回農業者年金オンラインセミナー開催のお知らせ

【独立行政法人農業者年金基金】

(独) 農業者年金基金では、「自分らしく輝き続けよう!」をテーマに第3回農業者年金オンラインセミナーを開催します(事前登録制・参加費無料)。

本セミナーでは、人生100年時代における農業者年金の必要性や農業者年金の具体的な年金額などについて解説し、リアルタイムで質問も受け付けます。

農業者年金の具体的な年金額を知り、将来の生活をイメージしたい農業者の方などに、ぜひご参加いただきたいと思います。

普及指導員の皆様におかれましては、地域の農業者、特に若い農業者や女性農業者に向けて本セミナーの開催についてお知らせいただくとともに、ご自身にとっても農業者年金を知る良い機会ですので、ぜひご参加ください。

▼開催日時: 令和7年8月26日(火) 15:00~16:00

▼申込締切: 令和7年8月25日(月)

▼申込フォームはこちら (Google フォーム) (外部リンク)

<https://forms.gle/WUHVJBUEVWwAdtwu8>

▼詳細はこちら (独立行政法人農業者年金基金 Web) (外部リンク)

<https://www.nounen.go.jp/nounen/seido/gaiyou/seminar/index.html>

※お問い合わせ先

独立行政法人農業者年金基金 (企画調整室) (03-5919-0332)

◆地域計画のブラッシュアップに向けて

【経営局 農地政策課】

令和7年3月末までに全国の市町村において約19,000地区の地域計画が424万haの農地を対象に策定され、ほとんどの農地をカバーできたところです。

一方、約3割の農地は、将来の受け手が不在となることも明らかになり、今後受け手不在の農地の解消なども含め、地域計画のブラッシュアップを進めていく必要があります。

そのため、地域では、目標地図をベースに「誰に集約するのか」、「どの品目の

産地にするのか」の視点も交えて具体的に話し合っていただく必要があり、地域の円滑な合意形成や産地に向けた取組など、普及指導員の皆様におかれましては、市町村をはじめ関係機関と一体となって地域計画のブラッシュアップに向けた地域の取組をサポートいただくようご協力のほどよろしくお願いします。

▼詳細はこちら

https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/chiiki_keikaku.html

※お問い合わせ先

農林水産省 経営局 農地政策課

(担当：松崎) (03-6744-2151)

=====

◆「農山漁村」インパクト創出ソリューションを選定！マッチング希望の自治体を募集します！

【農村振興局 農村計画課】

=====

今般、生産性向上、付加価値向上、地域コミュニティの維持及び関係人口創出などの農山漁村の課題解決に貢献する 11 社の企業の取組（「農山漁村」インパクト創出ソリューション）を選定し、令和7年7月16日(水)に公表しました。

今後、今回選定された取組が各地で実装されるよう、農林水産省や選定事務局による自治体等とのマッチング支援及び事業化に向けた伴走支援を行います。

現在、マッチング希望の自治体を募集しております。

回答フォーム締め切りは9月1日(月)ですが、締め切り以後もメールにて受付しております。

普及指導員の皆様におかれましては、貴都道府県の応募ご検討のほか、幅広い周知にご協力いただきますようよろしくお願いします。

▼詳細はこちら

令和7年7月17日農林水産省プレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nousei/250717.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村計画課 農村活性化推進室

(担当：安居、刀井) (03-6744-2141)

=====

◆(研究成果) カンキツの高品質果実生産技術「シールドィング・マルチ栽培(NARO S. マルチ)」の適用可能な園地が拡大

【農研機構】

=====

農研機構は、カンキツの高品質果実生産技術である「NARO S. マルチ」を技術改良し、平坦地だけでなく階段畑でも適用可能とした「片側 S. マルチ」を開発しました。片側 S. マルチは、排水設計された階段畑の園地において、植列の山側のみに専用の NARO S. シートを埋設した上で、地表面をマルチシートで覆う技術です。福岡県農林業総合試験場、熊本県農業研究センターと共同で片側

S. マルチの実証試験を行い、樹に適度な乾燥ストレスを与え、従来のシートマルチ栽培と比べて糖度が約2度高い12度以上の高品質果実を安定生産できることを明らかにしました。片側 S. マルチは、平坦地向けの NARO S. マルチに比べて NARO S. シートの埋設に係る資材・労力のコストを半減できます。

本成果について、技術の具体的な導入方法と効果をわかりやすく解説した標準作業手順書(SOP)を農研機構のホームページで公開し、実際に片側 S. マルチを導入された生産者の声を掲載した動画を YouTube NARO channel で7月29日から公開します。

普及指導員の皆様におかれましては、本手順書の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/170060.html

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、高橋）（03-3502-7407）

=====

◆（お知らせ）「北海道向けフェストロリウム品種『ノースフェスト』標準作業手順書」を公開

【農研機構】

=====

農研機構は、北海道の放牧や追播に適したイネ科牧草であるフェストロリウム品種「ノースフェスト」の標準作業手順書をウェブサイトで公開しました。

本手順書は「ノースフェスト」の越冬性や収量性、飼料品質などの品種特性および既存草地への追播利用を中心に栽培方法について解説したものです。

本手順書に記載された「ノースフェスト」の追播によって、植生の悪化したチモシー草地の生産性を回復することができます。

北海道の普及指導員の皆様におかれましては、本手順書の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/169802.html

※お問い合わせ先

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

(担当：吉田、佐藤、高橋) (03-3502-7407)

=====

◆(研究成果)かぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」を育成

【農研機構】

=====

農研機構は朝日アグリア株式会社と共同でかぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」を育成しました。栽培初期のつるが短いことから管理作業を省力できるほか、着果位置が揃うため果実を見つけやすく、収穫作業時の負担を軽減できます。国産かぼちゃの需要が高い秋から冬季の端境期での出荷が可能で、果肉の糖度が高く粉質でホクホクとした食感の良食味のかぼちゃ品種として普及が期待されます。

普及指導員の皆様におかれましては、本品種の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら (外部リンク)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/168585.html

※お問い合わせ先

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

(担当：吉田、佐藤、高橋) (03-3502-7407)

=====

◆(お知らせ)「促成栽培トマトにおける天敵タバコカスミカメ利用によるバコナジラミの密度抑制技術標準作業手順書」を公開

【農研機構】

=====

農研機構は「促成栽培トマトにおける天敵タバコカスミカメ利用によるタバコナジラミの密度抑制技術標準作業手順書」を7月14日にウェブサイトで公開しました。

本手順書では、トマト黄化葉巻病が問題となっている促成栽培トマト産地の普及指導員や営農指導員、生産者を対象に、技術の概要や導入手順、注意点を、実証事例とともに解説しています。

普及指導員の皆様におかれましては、本手順書の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら (外部リンク)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nipp/169960.html

※お問い合わせ先

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

(担当：吉田、佐藤、高橋) (03-3502-7407)

◆この暑さはどうなるの？「日本の気候変動 2025」をご活用ください

【気象庁 大気海洋部 気象リスク対策課】

2025 年 3 月 26 日、文部科学省と気象庁は「日本の気候変動 2025 ー大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書ー」を公表しました。日本の気温、降水、雪、熱帯低気圧などのこれまでの変化と、21 世紀末に予測される変化をまとめた報告書です。本編のコラムでは、農地への湛水被害に対する農林水産省の取組も取り上げています。

気候の変化は地域や季節によって異なり、例えば年平均気温の上昇量は緯度が高いほど大きく、夏よりも冬の方が大きいと予測されています。主に全国平均について述べた本編のほか、特定の都道府県を対象としたリーフレットなど様々な資料を用意していますので、普及指導員の皆様におかれましては、気候変動に適応するための最新の科学的知見として、ぜひご活用ください。

▼詳細はこちら（外部リンク）

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

※お問い合わせ先

気象庁 大気海洋部 気象リスク対策課 気候変動対策推進室

（担当：苗田）（03-6758-3900 内線：4113）

◆〈みどり戦略技術紹介〉AI による温州みかん糖度予測

【大臣官房政策課 技術政策室】

「みどり戦略技術紹介」では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様

に役立つ技術をご紹介します。

今回は、AI による温州みかん糖度予測についてです。現場での適切な栽培管理に繋がる技術です。

温州みかんを対象に、前年までに蓄積された糖度データと気象データから、AI(人工知能)による機械学習を用いて当年の糖度を予測する手法が開発されました。収穫よりも数ヶ月早い時点から実用的な精度で糖度を、地区を単位として品種・系統別に予測できます。これによって、適切な栽培管理ができ、温州みかんの品質の向上に役立ちます。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

普及指導員の皆様におかれましては、本技術をはじめ、カタログに掲載されている技術の活用をご検討いただき、生産現場で広く活用されるようご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら

「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(分割版：果樹)(PDF：7,983KB) p. 3

AI による温州みかん糖度予測

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/04_midori_catal

「みどりの食料システム戦略」技術カタログ

※お問い合わせ先

(担当：中野、小松崎) (0 3 - 3 5 0 2 - 3 1 6 2)

※メルマガの配信登録はこちら

※バックナンバーはこちら

※PDF形式のファイルの閲覧について

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものがあります。

PDFファイルをご覧いただくためには農林水産省ホームページ

⇒ <https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>

「3 PDFファイルについて」をご覧ください、「Get Adobe Reader」のボタンでAdobe Readerをダウンロードしてください。